図書館活動報告

図書館展示計画委員会報告

平成17年度は、春季ならびに秋季の特別展を総合図書館１階展示室において開催した。

春季特別展

「日本・明治期の新聞」

平成17年４月１日㈮～５月15日㈰

現在も重要なメディアの一角を占めている新聞は、日本において、幕末から明治にかけて次々と創刊され、新しいニュースメディアとして明治期に深く浸透していった。

今回の展示では、「瓦版」「黎明期の新聞」「明治期の新聞」「錦絵新聞」「新聞漫画」に分類して当館所蔵のオリジナルの新聞を中心に総計31点を出品し、明治期前半の新聞のおおまかな流れを紹介した。瓦版では、ペリーの黒船来航を伝える「蒸気火輪船之図」を、黎明期の新聞ではジョセフ・ヒコの翻訳・発行による『海外新聞』（影印版）をはじめ、イギリスの牧師B.ベーリーが発刊した邦字新聞『萬国新聞紙』、日本人により初めて発刊された『中外新聞』などを展示した。明治期の新聞では、木戸孝允の後援により発刊された『新聞雑誌』、前島密の着想に基づいて発刊された『郵便報知新聞』、落合芳幾の優美な挿絵が特色の『東京絵入新聞』を展示した。新聞の記事を題材に錦絵で描いた錦絵新聞では、『朝野新聞』や長谷川貞信（二世）の筆による錦絵新聞を、新聞漫画では、ワーグマンの風刺画で知られる“The Japan Punch”などを展示した。

『中外新聞』

秋季特別展

「八代集の世界―古今・新古今を中心に―」

平成17年11月14日㈪～12月17日㈯

記念講演会

演　題　「本を写すことと切ること」
講　師　田中　登 文学部教授（図書館長）
日　時　11月29日㈫　13：00～14：30
会　場　図書館ホール（総合図書館３階）

平成17（2005）年は、『古今和歌集』が出来てから1100年、『新古今和歌集』が出来てから800年という記念すべき年にあたり、和歌文学会を中心に全国の博物館、美術館、大学図書館などで様々な記念行事が催された。当館においてもこれを記念し、王朝400年の和歌の歴史を『古今和歌集』から『新古今和歌集』に至る八つの勅撰集の古写本や古筆切によってほぼ概観できるような標記展示を開催した。

公卿日野家の伝来品で西荘文庫の旧蔵品である「八代集」、下絵を施した上に、金銀の箔や砂子を撒いた華麗な装飾料紙に書写された「中山切」と呼ばれる『古今和歌集』の断簡、足利尊氏による書写として伝えられ、北山切と呼ばれる『新古今和歌集』の零本など、総計27点を出品した。

記念講演会では、文学部の田中登先生が、筆写により伝承されてきた古典文学の現代における受容の意義や古筆切の文字、料紙の芸術性などについて、古筆切の実物を用いながら講演され、貴重なお話をうかがうことができた。

『新古今和歌集』（北山切）